

**令和6年度
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための
指導の手引き開発事業**

公募説明会

令和6年2月29日

文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程企画室

1. 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

社会背景

【急激に変化する時代】

- 社会の在り方が劇的に変わる「**Society5.0時代**」
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大など先行き不透明な「**予測困難な時代**」
- 社会全体の **デジタル化・オンライン化、DX加速の必要性**

子供たちに育むべき資質・能力

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

【ポイント】

- ✓ これらの資質・能力を育むためには、**新学習指導要領の着実な実施**が重要
- ✓ これからの学校教育を支える基盤的なツールとして、**ICTの活用**が必要不可欠

2. 日本型学校教育の成り立ちと成果、直面する課題と新たな動きについて

「日本型学校教育」とは？

子供たちの知・徳・体を一体で育む学校教育

- 学習機会と学力の保障
- 全人的な発達・成長の保障
- 身体的・精神的な健康の保障

【新しい動き】



新学習指導要領の着実な実施



学校における働き方改革

GIGAスクール構想

【成果】

国際的にトップクラスの学力

学力の地域差の縮小

規範意識・道徳心の高さ

【今日の学校教育が直面している課題】

子供たちの多様化

生徒の学習意欲の低下

教師の長時間労働

情報化への対応の遅れ

少子化・人口減少の影響

感染症への対応

「正解主義」や「同調圧力」への
偏りからの脱却



一人一人の子供を主語にする
学校教育の実現

「日本型学校教育」の良さを受け継ぎ、更に発展させる/
新しい時代の学校教育の実現

3.2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

2020年代を通じて実現を目指す学校教育 「令和の日本型学校教育」の姿

＼全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現／



- ✓「個別最適な学び」と「協働的な学び」が一体的に充実されている
- ✓各学校段階において、それぞれ目指す学びの姿が実現されている

#個別最適な学び #協働的な学び
#主体的・対話的で深い学び #ICTの活用



- ✓環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続けている
- ✓子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たしている
- ✓子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えている

#教師の資質・能力の向上 #多様な人材の確保 #家庭や地域社会との連携
#学校における働き方改革 #教職の魅力発信 #教職志望者の増加



- ✓ICT環境の整備により全国の学校で指導・支援の充実、校務の効率化等がなされている
- ✓新しい時代の学びを支える学校教育の環境が整備されている
- ✓人口減少地域においても魅力的な教育環境が実現されている

#ICT環境の整備 #学校施設の整備
#少人数によるきめ細かな指導体制

中央教育審議会初等中等教育分科会「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(答申)のポイント

～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～【令和3年1月26日 中央教育審議会】

2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」で目指す学びの姿

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる。

① 個別最適な学び（「個に応じた指導」（指導の個別化と学習の個性化）を学習者の視点から整理した概念）

- ◆ 「個別最適な学び」が進められるよう、これまで以上に子供の成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められる
- ◆ その際、ICTの活用により、学習履歴（スタディ・ログ）や生徒指導上のデータ、健康診断情報等を利活用することや、教師の負担を軽減することが重要

② 協働的な学び

- ◆ 「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することも重要
- ◆ 集団の中で個が埋没してしまうことのないよう、一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせたり、よりよい学びを生み出す

「令和の日本型学校教育」の構築に向けた今後の方向性

- これまで日本型学校教育が果たしてきた、①学習機会と学力の保障、②社会の形成者としての全人的な発達・成長の保障、③安全安心な居場所・セーフティネットとしての身体的、精神的な健康の保障を学校教育の本質的な役割として重視し、継承
- 一斉授業か個別学習か、履修主義か修得主義か、デジタルかアナログか、遠隔・オンラインか対面・オフラインかといった「二項対立」の陥穽に陥らず、教育の質の向上のために、発達の段階や学習場面等により、どちらの良さも適切に組み合わせて活かしていく

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための指導の手引き開発事業

令和6年度予算額(案)

0.1億円
(新規)

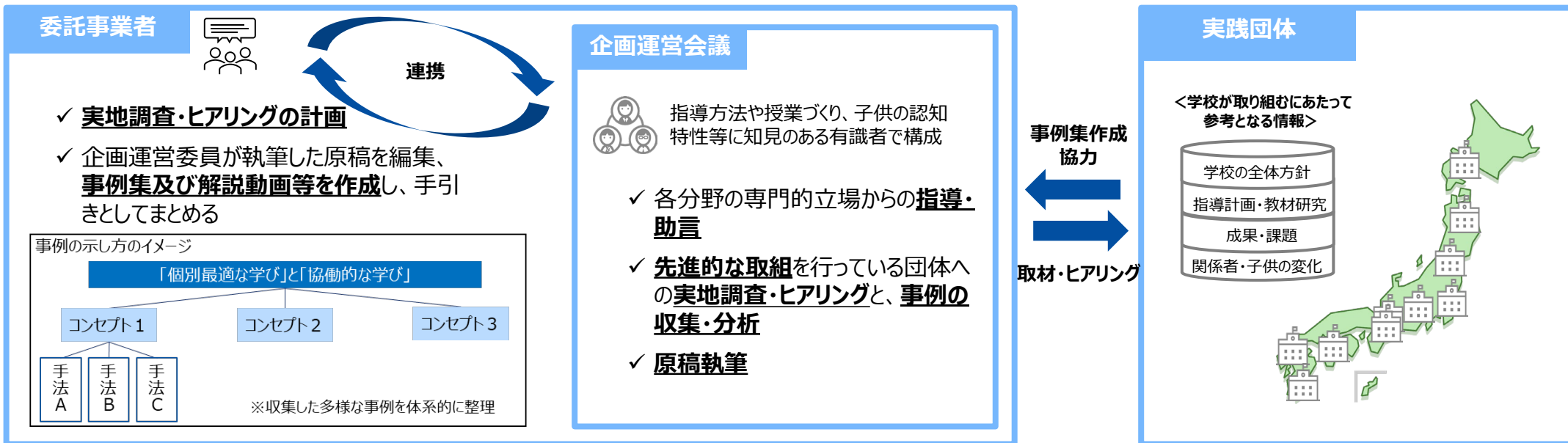


文部科学省

背景・趣旨

- 令和3年1月の中央教育審議会答申を踏まえ、各学校において令和の日本型学校教育の実現に向けた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた取組が展開されてきているが、進捗状況には各地域で大きなバラツキが見られる。このため、これから新たな取組を進めようとする学校や、現在の取組をより一層効果的なものとする学校を支援し、こうした学びを全国的に広げていくことが重要である。
- これを踏まえ、全国の教育委員会や学校における取組の参考となるよう、優れた先進事例を収集し、そこから得られた知見と共にその横展開を行うことで、「**個別最適な学び**」と「**協働的な学び**」の一体的な充実の推進による「**主体的・対話的で深い学び**」の視点からの授業改善の取組を促進する。加えて、これらの学びを踏まえた**次期学習指導要領の検討やその下でのより良い学習環境の実現**にも資する。

事業内容



アウトプット（活動目標）

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の取組の先進事例をまとめ事例集及び解説動画を作成し、周知

中期アウトカム（成果目標）

- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に取り組む学校の増加
- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組む学校の増加

長期アウトカム（成果目標）

学習指導要領の趣旨の実現による児童生徒の学校生活の充実

〈 課題意識 〉

個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実に向けた取組の状況には各地域で大きなバラツキが見られる。それは令和答申後、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実の必要性や、それを具体的に日々の授業で実践していく方法について、個々の教員にとってイメージできる形で政策を展開してこなかったからではないか。

〈 手引きの形態 〉

従来の指導資料等、紙の事例集の形では、

- 動画や、指導案様式のワードファイルなど多様な情報媒体を掲載できない（別途リンクなどで飛ばす必要がある）
- 配布は1自治体数冊が限度で、個別の教員まで届かない
- シェアしたい部分だけを簡単にシェアすることが難しい
- 一度作成したら、修正や事例の追加が難しい
（学習指導要領の改訂や背景となる理論の進展にも対応できない）

など、〈課題意識〉に対応するような個々の教員にもとに届く発信が難しい一方、独自のHPをイチから構築するのは予算上も困難。

➔ 既存のメディアプラットフォーム『note』を活用し、オンライン記事の集合体（オンラインマガジン）形式で発信する。

〈 手引きに求めたい機能のポイント 〉

① 平易で具体的

- ▶ 徹底的に具体的かつ平易で、授業実践に落とし込みやすい
⇒ 分かりやすい文章はもちろん、加工可能な指導案、実際の授業動画、写真などを駆使

② 意義の明確性

- ▶ なぜその取組が必要で効果的か分かりやすく、他者に説明しやすい
⇒ 実践例だけではなく、取組の背景にある「理論・意義」が分かりやすく書いてある

③ 拡散しやすい

- ▶ 教員自身の手により拡散しやすく、ひとりでも多くの教員に届く
⇒ 教育委員会から学校といった経路依存的な共有だけでなく、オフライン・オンライン問わず
様々なコミュニティで、教員自身が必要な部分を簡単に共有でき拡散していくようにする

④ 拡張しやすい

- ▶ 特定の方法論の伝播ではなく、新たな実践の登場や要望に応じて取組を追加しやすい
⇒ 取組の背景にある「理論・意義」に沿った、現場のニーズが高い実践を追加していくことで
更に多様な実践の広まりや深まりが期待できる

〈 想定されるターゲット 〉

- 各校の教務主任や、教育実践への感度が高く自由進度学習等にこれから取り組もうと考えている教員
- 個別最適な学び・協働的な学びに既に取り組んでおり、取組の拡大・共有を考えている教員やインフルエンサー（有識者、附属学校の教員、著名な校長・教育長など）

〈 ユースケース 〉

- 教員が自分自身の実践構築に当たって、学びたいところをつまみ食いして学ぶ
- 教員が、自分がやってうまくいった実践の意義やポイント等についてより客観的に伝えるために、校内研修や自治体内の教科の研究会、またオンラインの教員コミュニティ等で共有し横展開
- 教育業界のインフルエンサーによるオンラインでのシェアを通じた横展開